

青少協貝取地区委員会と豊ヶ丘地区委員会が統合し 豊ヶ丘・貝取地区委員会になります

豊ヶ丘地区委員会会長 武内喜則

貝取地区委員会会長 斉藤幸枝

青少協貝取地区委員会と豊ヶ丘地区委員会は、これまでの数年間、地区委員会統合を目指して、共催事業の開催や合同定例会、書記や編集・広報の共同作業の拡大などに取り組んできました。コロナ禍の中で、地区委員会事業を予定どおりに進めることのできない困難な状況下ではありましたが、統合へ向けた具体的な検討を重ね、2月の地区委員会合同定例会（書面にて開催）で、来年度からの統合を決定しました。

2021年度からは、豊ヶ丘・貝取地区委員会として、豊ヶ丘小学校、貝取小学校、青陵中学校の学区のなかで、活動していくことになります。子ども達が活躍できる場の提供や、子ども達が生き生きと過ごせる地域を創ることに貢献できるよう、両地区委員会が積み重ねてきた活動を土台として、これまで同様に地域行事や、防犯パトロール、子ども達に関わる地域の方々との情報交換の場としての定例会などに取り組んでいきます。

教職員の皆様や保護者の皆様、地域の皆様と手を携えて、青少協の活動を進めていきます。これまでも増して、青少協豊ヶ丘・貝取地区委員会の活動へのご理解とご協力をお願いいたします。



貝取小学童クラブをよろしくお願いします！

貝取小学童クラブ 施設長中村真理子

貝取小学童クラブは2020年4月より、多摩市豊ヶ丘学童クラブが貝取小学校内に新築移転され、同時に社会福祉法人多摩福祉会が運営受託致しました。多摩福祉会が多摩市内ではこぐま保育園を運営しており、ほかに練馬区で1園、世田谷区で2園の保育園を運営しています。学童クラブでは永山小学童クラブ、永山学童クラブ、貝取学童クラブを運営受託しておりますが、全国でも珍しいグループ担当制を行っています。貝取小学童クラブでは地域を目安に子どもたちを3つのグループに分け、少人数での育成を実践しているところです。

最寄りの駅は多摩センター駅が永山駅ですが、どちらの駅からも少し遠く、バスや自家用車、自転車等を利用する方が多い地域です。地域柄もあるのでしょうか、子どもたちはとても素直、元気いっぱいです。

施設定員は80名で、12月1日現在68名の児童が在籍しています。貝取小学童クラブは貝取小学校の校庭にあり、学校の南側に建っています。屋根の色はブルー、外壁は落ち着いたベージュ色です。室内の壁は豊かな自然をイメージしてクローバー柄にしました。カーテンはやさしさと温かさを感じる柔らかなオレンジ色に、室内のドアはナチュラルな色合いにさせていただき、子どもたちの目にも優しい室内になっていると思います。

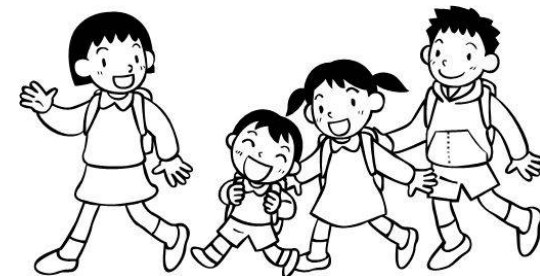
育成室の隅には小さな個室があり子どもたちがピアノを弾いたり、疲れた時には一人になって休んだり、宿題がはかどらないときには勉強部屋になったり、子どもたちの好きな場所になっています。

和室にはたくさんの図書があります。図書館からお借りしている本、図鑑、紙芝居、雨の日に読める漫画も用意してあります。和室では静かに過ごし、ゆっくりと読書をすることができます。

育成室はロッカー棚で3つのスペースに区切られ、おやつや帰りの会など、グループ別に行っています。グループ別の小集団の良さは集合時間が短くて済むこと、大きな声を出す必要がなくなること、一人一人の子どもたちとの距離が近いこと、などなどたくさんあります。少ない人数で過ごすことにより職員も子どもたちも集団で待つことのストレスが軽減されているように感じます。各グループには子どもたちが付けたグループ名があり、レインボーグループ、キメツグループ、スポーツグループと呼び合っています。

小学校ともよく連携させていただいており、授業が終われば校庭を使わせていただいていますし、雨の日には体育館もお借りしています。身体をのびのびと動かしたい子どもたちの活動を保障できるのも、先生方のご理解があってこそと感謝しております。

開所したばかりでこれからという時に新型コロナウイルス感染拡大防止のための休校、それから緊急事態宣言、登所自粛の願いをせざるを得ない苦しさなど、特別なスタートを切ることになってしまいましたが、そんな中でも子どもたちの笑顔が私たち職員の支えとなりました。これからも大人も子どもも皆が笑って過ごせる、明るい学童クラブを目指していきます。



地域の学校に新任された校長先生・副校長先生からのごあいさつ

多摩市立青陵中学校 校長 相楽 敏栄

今年度4月に、多摩市立青陵中学校、第4代校長として着任しました相楽敏栄（さがらとしえい）です。初対面の方に「相楽」という名字を正確に読んでくださる方はとても少なく、馴染みのない名字です。しかし、「相手と楽しむ」というように紹介しますと忘れない方が多いようです。是非、覚えていただければ幸いです。

教員をスタートした地がこの多摩市でした。三十数年前、大学を卒業したての若かりし頃、期待を胸に多摩市立和田中学校に着任しました。それと同時に、貝取地区の東側の永山6丁目にアパートを借りて2年ほど住みました。今年の6月中頃だったと思いますが、青陵中の玄関で保護者の方に挨拶をすると「先生の理科の授業を和田中の時に受けました。」といわれ、うれしいやら恥ずかしいやらの複雑な気持ちになり、三十数年前の6年間の記憶をたどりました。

6年間に在職した中で、市内の小中学校にどのようなコンピュータを導入し、児童生徒にどのように使わせるのかを検討するための委員として貢献できたことを覚えています。コンピュータを市内の小中学校へ導入する時期でした。西落合小学校だったと記憶していますが、先行導入されていて、小学校での実践が積み上げられていました。その実践を基に、どのような使い方をさせ、授業に役立てていくのかという事を議論し、コンピュータの機種を決めていったことを思い出します。今では学校はもちろん、ご家庭にもパソコンとインターネットがあり、学習内容が変わってきましたので、それに伴ってコンピュータの使い方も変わってきました。

多摩市立豊ヶ丘小学校 副校長 滋野卓也

今年度4月から、豊ヶ丘小学校副校長に着任いたしました滋野卓也です。

豊ヶ丘小へ着任したことによって、いくつかの再会や出会いがありました。

私が大学4年生の時に、杉並区で教育実習を行いました。その時に指導してくださった先生が市内近隣の学校におり、25年振りの再会をはたすことができました。

また、5年前は調布市で学級担任をしていましたが、その時に在籍していた子が豊ヶ丘小へ転校していたため、5年振りに再会することができました。その調布の学校でお世話になった副校長先生と豊ヶ丘小の小畑校長先生が元同僚だったり、本校校内研究の講師の先生が大学院でお世話になった先生だったり、何か見えない力に引き寄せられて豊ヶ丘小へ異動してきた感覚がありました。

人と人との出会いは、奇跡とも言えるような「偶然」の重なりであり、それと同時に「必然」でもあると私は考えます。「偶然」であり、「必然」でもあった皆様との出会いやそこから生まれるつながりを大切にしていきたいと考えます。学校は地域の一部であり、子どもたちは地域の中で育っています。青少協の皆様と共に力を合わせて、子どもたちを育てていきたいと思います。今後も本校の教育活動に対するご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

私は、ランニングと登山が好きです。多摩市陸上競技場を発着とする「多摩市ロードレース大会」によく出場し、「魂」とキティちゃんがプリントされたTシャツをいくつも持っています。雪山登山が好きで、八ヶ岳にある多摩市青少年交流の家も泊まったことがありました。多摩市との不思議な縁を感じるとともに、坂や階段のある風景やまるで公園の中にいるような木々の緑の濃さや紅葉のきれいさなど多摩市のことも好きになりました。

「偶然」に、そして、「必然」として出会った豊ヶ丘小の子どもたちとの出会いを大切に、豊ヶ丘小の子どもたちのために、全力でがんばります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

多摩市立貝取小学校 副校長 高橋 篤

令和2年4月に着任した、貝取小学校副校長の高橋篤です。

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う、臨時休校や時差登校、新しい生活様式に基づく教育活動を実施するにあたり、地域や保護者の皆様にご理解とご協力をいただき、この場をお借りしてお礼申し上げます。

昨年度まで、6年間、学校を離れ、教育委員会（行政）で小学校の特別支援教室の導入、中学生の進路、小学校と就学前機関（幼稚園・保育所）との連携に関する業務等を行ってきました。教育委員会の前には、小学校・中学校それぞれで、通常の学級・特別支援学級の担任をしていました。特に、自立活動を時間割に設定した、「知的な遅れのない障害のある生徒に対する、中学校の自閉症・情緒障害学級の開級にあたっては、様々な立場の方と準備や相談を重ね、10年ほど前に都内で初めて開設し、担任として関わりました。今でもそのときの生徒や保護者の方からご連絡をいただくことがあり、自分の人生の中で大きな糧をいただいた機会だったと思っています。これ以外にも現場時代には、海外の日本人学校で仕事をしていました。発展途上国の医療機関が十分に整わない中、治安対策に努めながら、大使館と協力して「日本と同等の教育（図書館の充実、受験指導、幼稚園との連携、特別支援教育）」を模索したこともまた、貴重な機会をいただいたなと思っています。

今年度6年ぶりの現場、11年ぶりの小学校の現場に戻り、子どもたちや保護者の方とお話したり、関わったりしながら、楽しく仕事をさせていただいています。

これまでの経験を生かし、「一人一人の児童やその保護者、取り巻く関係機関」と「機動的」に関わっていききたいというのが私の信念です。たとえば、地域からご連絡をいただき、学区内の通学路上に危ないところがあった際、教育委員会や市、警察等の関係機関に連絡をして安全対策を講じること。たとえば、朝の登校が確認できず、保護者の方から連絡がない場合、承諾を得て家庭訪問し、「一人で熱中症や病気で倒れていないか・通学途上に事故等に巻き込まれていないか」を確認すること。それが、大切な貝取小学校280名の児童に対して、「280分の1人」ではなく、「1人×280」の意識を持った職務の一つのあり方ではないかと思っています。至らぬ点が多々あるかとは思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

コロナ禍の中での10ヶ月(3月～12月)

青陵中学校



今年度は4月のスタートから、学校としても初めての経験の連続でした。2・3年生の始業式は放送で実施。新1年生は、天気恵まれて校庭で入学式を行いました。急な対応でしたが、桜の花も咲く中で明るくのびやかな雰囲気となりました。

6月の休校明けは分散登校で始まりましたが、7月には通常の授業形態となり、感染症予防に気をつけ部活動も少しずつ活動を広げていくことができました。公式戦は中止になったものの、多くの競技で3年生の引退試合が企画され、3年の生徒達は最後の大会を終えて引退することができました。

3年生の修学旅行を始め、多くの学校行事が中止となりました。授業以外の生徒の活動する場を設けたい、クラスや学年の団結を高める機会をつくりたいと考え、9月から10月にかけて各学年が学年レクリエーションを実施しました。担当の生徒を中心に準備を進め、当日はクラス対抗全員リレーや百人一首大会、スプーンリレーなどに大いに盛り上がりました。

仲間と声をかけ合い、力いっぱい活動する楽しそうな生徒達の姿に、学校生活における行事や様々な活動の大切さを改めて感じました。特に3年生のクラス対抗全員リレーは、他の行事がなくなった中で、クラス皆の思いが一つになった感動的なものでした。

11月の2年生の校外学習は行き先を例年の下町方面から多摩地域に変えて行いました。知らなかった地域の魅力を新たに発見し、まとめの発表では1年生を招待し、工夫をこらした発表と先輩としての堂々とした姿を示すことができました。

豊ヶ丘小学校



今年度は、4月・5月の「臨時休校」、6月からの「分散登校」「時差登校」、運動会やハヶ岳移動教室、学習発表会など様々な学校行事の中止など今まで学校が直面したことのない日々の連続でした。その中で、6月の学校再開から継続して、本校では、「あい・て・ます・か」を合言葉に、「新しい生活様式」を実践しています。

10月下旬の「豊ヶ丘の自然学校」では、6年生が校内でテントや寝袋で2泊したり、夜の学校や学校林の探検を行ったりしました。また、11月中旬の「ステージデイ」では、音楽やダンスなど各学年の学習成果の発表を行いました。新型コロナウイルス感染症予防にも十分注意し、密を避けながら、子どもたちにとって安心・安全を最優先に、学校でできることを行っていこうと模索し、実践してまいります。



中学校・小学校奮闘記

貝取小学校

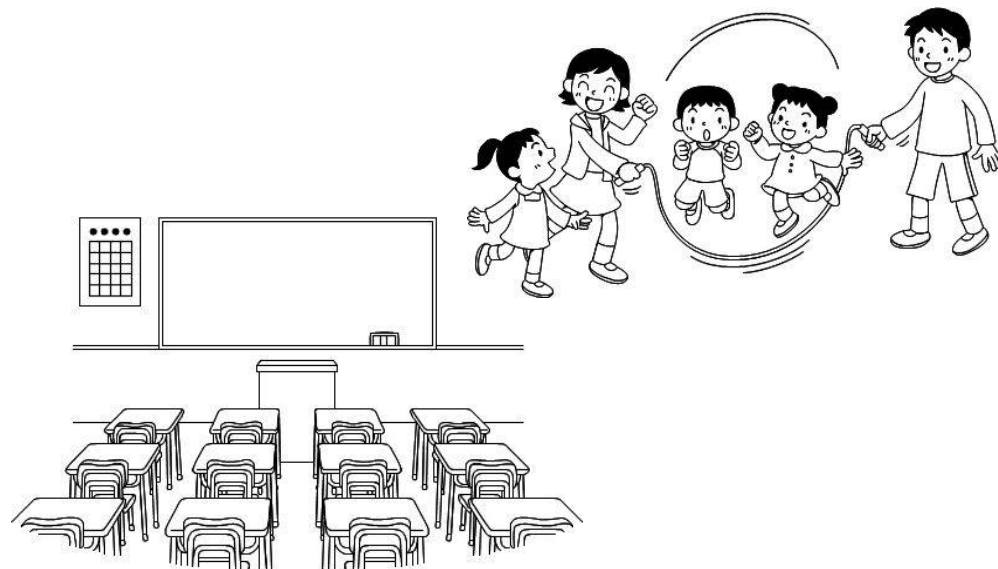


6月の分散登校を経て一斉登校が始まるとき、密を避けることがこの状況下でできるのか不安が大きかったことを思い起こしています。単学級で30名以上の在籍数の2年生、3年生は座席を離すこと自体が厳しく、一番人数の多い3年生に貝取ホール(2教室分の広さ)を教室として使用することが決まりました。2年生はその他に使える広い部屋がなく、やむなく授業は今の教室のまま、給食のみ隣の空き教室を使い2グループに分け、担任以外にもう一人数員が付く形をとることになりました。トイレや流しも待っている時に込み合わないよう床にテープを貼り間隔を開けられるように目印をつけました。

他にも朝の検温チェックをどうするか、児童下校後の消毒作業など決めていかないとならないことが山積みでした。保健的には必要物品が品切れ(マスクや消毒液)で購入できず、今確保している物はいつまでもつのか気持ちばかり焦っていました。大きな行事はほぼ中止、クラス間の交流もできず、遊び方も制限され、子供たちの心は健康でいられるのだろうかと心配も尽きませんでした。

保護者の方の協力を得て、「体調が悪いときは無理して登校しない」が定着しているおかげで、登校後体調不良を訴える児童も例年になく少なくなっています。早め早めの対応をありがとうございます。これからインフルエンザの流行も予想される中、発熱者への対応も難しく、またまた頭を悩ませています。新型コロナウイルスの感染者も増加の傾向をたどっています。いつ、だれが感染してもおかしくない状況であると思います。それでも日々の生活は続いていて、学校は少しでも感染のリスクを下げようと頑張っているところです。

子供も大人も今までとは違う環境の中で、精神的にも肉体的にも疲労感でいっぱいです。



コロナ禍の中での10ヶ月(3月～12月)

貝取学童クラブ



『消毒作業』：毎日夕方に職員総出で、遊具・ドアや机、壁など子どもが触ったと思われる箇所の消毒を行っています。最初は「今日これで遊んでいた？」と確認をしながら職員の記憶を頼りに消毒をしていました。そこで緊急事態宣言が発令され職員の出勤人数を減らした中での効率を上げるために、まずは遊具の選別を行い子どもたちが遊べる物をリストアップして掲示しました。そのリスト化した遊具をホワイトボードに書き、毎日遊んだ遊具を黒チェック、消毒した遊具を赤チェックでそれぞれつけて共有できるようにしました。今では夕方子ども達も手袋をつけて手伝ってくれる事もあります。

『生活・遊び』：学童クラブではどうしても子どもたちが密になってしまう事があります。そのため手洗いうがいの徹底をするように声かけを行っています。またマスクの着用に関しては室内では必ずするように促し、外でのマスクは子ども達も自分で管理していますが、近距離での会話をしている時にはマスクを着けるか距離をとるように声を掛けています。

集合時には長机に6～7名が勉強をしたりお弁当やおやつを食べたりしていましたが、今では多くても3名で横並びに同じ向きで座るようにしています。机も増設し、図書室やテラスを使う事もあります。また食事の時は仕切りを置き、両隣が食べ終わリマスクを着けたら職員が仕切りを外すようにしています。それでも学童クラブでのおやつを楽しみにしている子もたくさんいて、前のように楽しく話さなくなってしまう、近くの子とおしゃべりしながら食べている子もいます。

遊びの場面では直接タッチしての鬼ごっこは禁止にしていたので、鬼ごっこをしている子が少なかったのですが、最近では遊び始めと終わりに手洗いをしっかりする事を前提に解禁しています。今では久しぶりの鬼ごっこ・ドロケイでタッチの加減がうまくできなかつたり転ぶ子も多かつたりと別の課題が出てきています。

『その他』：室内は最後の施設時に次亜塩素酸水の噴霧器をタイマーで切れるようにセットして消毒をしています。また基本的に朝からずっと窓は開けて換気し、空気清浄機、加湿器を使用しています。消毒液は入り口や水道回りなど複数箇所に設置をして、職員も子どももこまめに消毒を行えるようにしています。

職員は昼食時には向かい合わせにならないようにしたり、アクリル板を設置したりして対策を行っています。



学童クラブ・児童館奮闘記

豊ヶ丘児童館



年明けより少しずつ新型コロナウイルスの脅威が忍び寄ってきている中でも、来館者の皆さんに楽しく過ごしてもらおうと様々努力していた2月下旬、ついに多摩市の児童館ではすべてのイベントが中止となってしまいました。

イベントはなくなっても、楽しく安心して過ごしてもらえるよう、来館する方々にはマスクの着用とうがい手洗いの徹底を呼び掛けて、感染拡大防止に努めていましたが、全国の感染拡大を受け、3月1日より多摩市の全児童館が閉館となりました。

閉館中でも児童館職員として何かできることはないかと、三密にならずに室外で遊べる遊具の貸し出しや、ステイホーム期間中には各児童館が趣向を凝らし、それぞれの職員が出演する動画を撮影、Youtubeにて配信するなど、新しいことにも挑戦しました。豊ヶ丘児童館は3本の動画を配信し、今も見るができます。多摩市の公式 Youtube チャンネルよりご覧ください。

緊急事態宣言が解除され、小学校も再開された6月1日より児童館も再開。入館時には手指消毒と検温の実施、利用時のマスク着用をお願い、館内各部屋の利用人数の制限など、コロナ前とはずいぶん違う形での開館でしたが、利用者からは「少しでも人と話せる場ができてホッとした。児童館が開館してよかった」などの声をたくさんいただきました。

7月には幼児向けの小さなイベントがスタート。9月からは小学生に向けた少人数のイベントも再開するなど、少しずつ以前の日常に近い形での児童館運営を行えるようになってきました。

しかし、利用者の皆さんに安心安全に児童館をご利用していただけるよう、引き続き消毒の徹底を行っています。使用したおもちゃ類やイス、机、手すりや窓枠など手が触れやすい場所などの消毒のため、お昼に1時間30分の閉館、また17時以降は消毒のため一部の部屋の利用を制限させていただいています。

青少協貝取地区委員会・豊ヶ丘地区委員会



3月の唐突な一斉休校の決定、さらには緊急事態宣言発出へと進み、活動の引継ぎどころか、新地区委員さえ決められない状態のまま、新年度を迎えることとなりました。行事の内容検討や地域の情報の共有の場となっている毎月の定例会も、5月と6月は中止とせざるを得ませんでした。7月以降は、参加人数を絞りつつ合同定例会を開催できたものの、予定していた主催行事は、中止を余儀なくされてしまいました。どんと焼きは、感染防止に配慮した形で、なんとか開催したいと準備していましたが、2回目の緊急事態宣言の発出もあり、開催日3日前の中止決定となりました。私たちの青少協活動は、人と人の関わりの中で成立するものです。新型コロナウイルスは、人間らしい社会的活動を実に巧妙に破壊します。コロナ禍の影響が来年度まで長引く恐れがあり、感染の収束が見通せない中、地域の活動に一層の知恵と工夫が求められていると感じます。